

日本共産党市議会議員

中町 さとしです

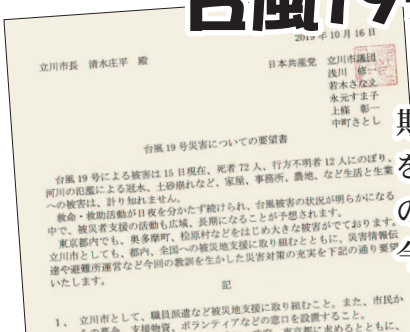
市議会ホームページをご覧ください！



市政報告



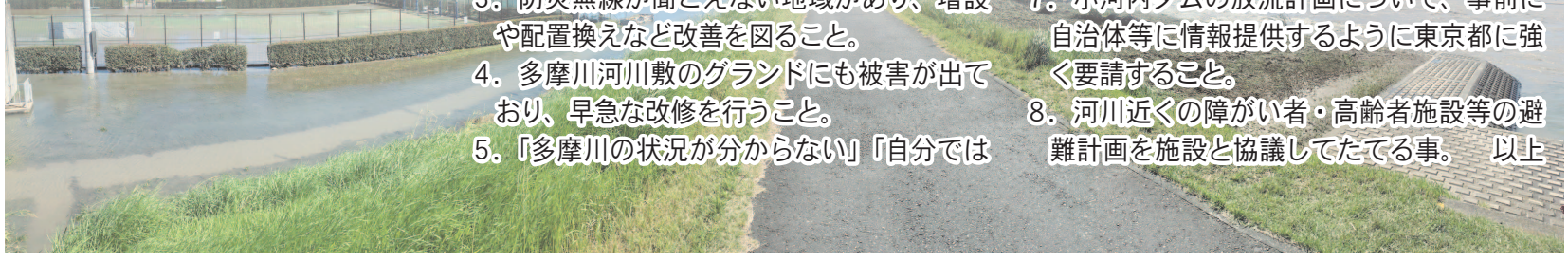
台風19号災害についての要望書を提出しました



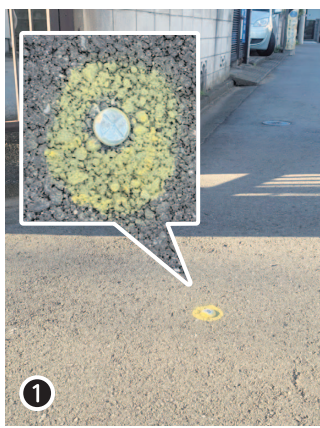
台風被害の状況が明らかになる中で、被災者支援の活動も広域、長期になることが予想されます。東京都内でも、奥多摩町、桧原村などをはじめ大きな被害がでております。立川市としても、都内、全国への被災地支援に取り組むとともに、災害情報伝達や避難所運営など、今回の教訓を生かした災害対策の充実を下記の通り要望いたします。



1. 立川市として、職員派遣など被災地支援に取り組むこと。また、市民からの募金、支援物資、ボランティアなどの窓口を設置すること。
2. 日野橋の復旧を速やかに行うように、政府、東京都に求めるとともに、通行できない期間の交通安全・渋滞対策などに取り組むこと。
3. 防災無線が聞こえない地域があり、増設や配置換えなど改善を図ること。
4. 多摩川河川敷のグランドにも被害が出ており、早急な改修を行うこと。
5. 「多摩川の状況が分からない」「自分では見に行けない」などの声がある。消防や警察とも協力して、多摩川の水位などをパトロールしながら地域に災害や避難情報を伝えること。
6. 自主避難について、食事や水、薬持参という情報が伝わらず、混乱を招いており、避難所には、水や食料などの用意をすること。
7. 小河内ダムの放流計画について、事前に自治体等に情報提供するように東京都に強く要請すること。
8. 河川近くの障がい者・高齢者施設等の避難計画を施設と協議してたてる事。 以上



都市計画道路 立3・3・30号線



500名以上が参加した説明会では、「8月から測量調査を行う」と説明していましたが、測量調査のための**びょう**（写真①）が私道に許可もなく7月から打ち込まれていました。

私は一般質問で「なぜ、説明会と違うことが起きたのか、私道の地権者には許可を得ているのか」と質問しました。

市長は「測量作業の開始という解釈に、市民との差異があった」と答弁しました。

私は「市民の所有権の侵害という認識はあるのか」と質問。

市は「頭が1センチ、長さが5センチ程度の簡易な釘を打つことは、通常の作業という認識」と答弁。

私は「住民が長年使っていた愛着のある道路。しかも、地域コミュニティを途切れさせないため、近隣住民はこの都市計画道路に反対を表明し、至る所に看板（写真②）を掲げている。住民の目の前でおきている。行政は住民との思いがかけ離れすぎている。小さな釘でも、住民にとっては大きな釘だ」「市は住民の立場で考えて動くべき。都にしっかり物を言うべき」と強く要求しました。



住民への説明会と違う…
測量調査？市の認識は？

不妊治療の補助に 上乗せする支援を

不妊治療はとても個人的でデリケートな問題です。誰にも相談できず、悩みを抱えている方は多いと思います。

5万円を上限にした都の補助制度はありますが、まだまだ、経済負担が大きい治療であるため、さらに上乗せをする補助制度を立川市が行うべきと要望しました。

